

①イエスの涙の理由

主イエスはろばに乗ってエルサレムへと近づいていかれました。そしてエルサレムが見えたとき、「イエスはその都のために泣いた」と記されています。イエス様が泣かれた、涙を流された、と記されている箇所は多くありません（他にはヨハネ福音書 11:35。ラザロが死んだとき）。イエス様はなぜこの時エルサレムのために涙を流されたのでしょうか。

この時イエス様が目にされたエルサレムはそれほどひどい状態にあるわけではありませんでした。立派な神殿があり、人々は平和に暮らしていたのです。ローマ帝国の支配下にありましたが、ローマ帝国は支配下にある人々にある程度の自由を与えていました。当時の状況を表わす言葉として「パックス・ローマーナ」という言葉があります。ローマの強力な支配権の下、地中海世界では大きな戦争が起こらず、平和が実現していたからです。エルサレムも言わばそのような「ローマの平和」に与っていたと言えるでしょう。

しかしこの時イエス様はエルサレムを見て涙を流されました。それはイエス様の目には今の平和な状態が終わり、エルサレムには悲惨な運命がやって来ると言うことが見えていたからです。19章43節から44節で次のようにおっしゃっています。

「やがて時が来て、敵が周りに堡壘を築き、お前を取り巻いて四方から攻め寄せ、お前とそこにいるお前の子らを地にたたきつけ、お前の中の石を残らず崩してしまうだろう。」

そして実際、エルサレムは紀元70年にローマ軍によって取り囲まれ、徹底的に滅ぼされてしまったのです。イエス様はこの時にすでにそのようなエルサレムの悲惨な運命をご存知でした。だからこそ、イエス様はその都のために涙を流し、深く悲しまれたのです。

私たちにあって夏という季節、特に8月はかつての戦争のことを思い起こす時です。日本も悲惨な敗戦を経験した国です。それゆえに8月はその戦争を思い起こし、平和への思い、平和への願いや祈りを改めてあつくする時です。しかしその時私たちが問わざるを得ないことは、果たして今私たちが、この日本という国が「平和への道」を歩んでいるのか、ということです。確かに表面的には日本は戦後75年間、戦争をしてきませんでした。そこには戦力の不保持と平和をうたった憲法の果たした役割が大きかったと思います。しかし近年、その憲法や法律を変える動きが強まり、再び戦争ができる国になろうとしているように思われます。日本は唯一の被爆国でありながら、核兵器禁止条約には署名していない（しようとしな）という事実もあります。その背景には核兵器を保有しているアメリカによって守ってもらおうという日本の考えが根本にあるのだと思います。

そのような中で私たちは、この日本は果たして「平和への道」を歩んでいると言えるのでしょうか。それ以前にそもそも平和への道を本当に知っているのか、わきまえているのか、と問わなければなりません。

②平和への道（神の訪れの時）を知らない悲惨

イエス様はエルサレムのために涙を流されながら次のように言われました。42節
「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたら……。しかし今は、それがお前には見えない。」

ここで「わきまえる」と訳されている言葉は「知る」という言葉です。イエス様はエルサレムが「平和への道」を「知って」いたなら、わきまえていたなら…と願っておられるのです。「しかし今は、それがお前には見えない」、「お前の目から隠されている」と嘆いておられるのです。平和への道が見えていなかった。それをわきまえていなかった。それゆえにエルサレムは平和ではなく、破滅へと至ってしまうのです。

さらに 44 節の最後では「それは、神の訪れてくださる時をわきまえなかったからである」と言われています。ここでも「わきまえなかった、知らなかった」という言葉が使われています。すなわち、「平和への道をわきまえない」とことと「神の訪れの時をわきまえない」とことは同じことなのです。神は平和をもたらすためにイエス・キリストにおいて訪れてくださいました。イエス様を喜び迎えた弟子たちはそのことをわきまえていました。それゆえ彼らは「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光」と歓呼の声を上げながらイエス様を王としてお迎えしたのです。「天」、すなわち神様がおられるところにこそ「平和」があります。そしてイエス様はその「天の平和」を地にもたらすために主の名によって来てくださった王だったのです。しかし、エルサレムはそのことをわきまえず、イエスを王として受け入れず、最終的には十字架につけて殺してしまったのです。それゆえにエルサレムは神の怒りと裁きを受け、ローマ軍の手によって滅ぼされてしまうこととなります。イエス様はそのエルサレムのことを思って嘆き悲しみ、涙を流されたのです。

イエス様は平和をもたらすために来てくださいました。それは「天にある平和」、神からの平和、神との平和です。この「神との平和」なしに、真の平和が実現することはありません。そしてこの「平和」を実現するために、主イエスは来てくださり、私たちの罪を背負って十字架上で死んでくださったのです。そして死から復活し、天に上り、今は神の右の座に着いておられます。今やキリストはエルサレム（ユダヤ人）だけの王ではなく、全世界の民の王となっておられます。そしてすべての民に平和を与えようと望んでおられるのです。真の平和は、軍事力によってあるいは強い国に守ってもらうことによって実現するものではありません。ろばに乗った平和の王のご支配によって実現するのです。それゆえ「平和への道」とはこのキリストを自分たちの王としてお迎えし、この方に従い、導かれて歩んでいく道です。私たちが、日本が、世界の国々が、キリストによって示された「平和への道」を知り、歩んでいくことができるよう祈りたいと思います。